



## JR連合「第33回中央委員会」開催！

コロナ禍における21春闘勝利とJR連合への総結集を成し遂げる！

JR連合は2月2日、小倉市内において、「第33回中央委員会」を開催した。冒頭、JR連合荻山市朗会長は挨拶で、緊急政策課題の解決にむけた昨秋の署名活動や決起集会、数次の要請行動による成果と課題を述べ「雇用調整助成金の特例延長をはじめ、JR産業が苦境を乗り越えるために必要な様々な措置が講じられるよう、国会議員懇談会や連合、交運労協と連携し、継続して取り組む」と決意を語った。



同委員会は、安全の確立、コロナ禍による社会・環境変化への対応、2021春季生活闘争勝利、「JR連合ビジョン」の実践を通じた組織強化・拡大、政策課題解決などを柱とする当面の活動方針を、真摯な討議を経て満場一致で決定した。

### 添田寿男中央委員がイーストユニオンの決意を表明！（発言要旨）

JR東日本は9月に今期連結業績予想を、純損失 4,180 億円としたが、さらに下方修正し、純損失 4,500 億円、売上高予想も大きく引き下げた。また、鉄道と他の事業の事業比率目標も 6:4 から 5:5 とし、2027 年までに実施するとしている。会社は2年連続の赤字は是が非でも回避したい考えだが、一企業だけでの努力では立ち行かない。この間の JR 連合の各関係機関への要請行動、そして署名活動は大きな成果を生み出した。



エッセンシャルワーカーとして社会生活における重要な役割を担っている私たちは、安全を最優先に、感染への不安の中、安全・安定輸送の確保のため、感染防止に努めながら日々業務にあたっている。この厳しい経営状況下で、私たちは困難な状況を乗り越える為、雇用を守り、会社の維持発展に向けて、「会社と共に！～JR東日本における真の変革に向けて～」、3つの改革「社員の意識改革」「職場改革」「労使改革」を提起した。「変革 2027」が目の前で現実起きていると認識し、関連会社を含む社員とその家族を守り、労使一体となり危機的状況をいかに乗り越えるか、職場に蔓延る一体感と危機感の欠如、空虚感を一掃する取り組みを断行することを決意した。

国鉄改革を経験していない社員が多数となり、経営陣、管理者も含め危機意識が欠如し、会社発足以来の危機かつ一過性ではない構造問題に直面している認識がない。そして、未だに多数の労働組合が乱立し、この状況を乗り越えるには様々な弊害が存在する。大きな社会構造の変化に対応するには、大胆な業務改革を実行していかなければならない。そのためには、「健全で強固な労使関係」の構築は絶対的に必要。それを担えるのは私たち「ジェイアール・イーストユニオン」だけである。私たちはこの取り組みを組織拡大へとつなげる活動として実践していく。

21 春闘はこれまでにない厳しいものとなるが、JR 連合の方針に則り展開していく。雇用の維持を第一に、定期昇給の実施、賃金を含める労働諸条件の改善として月例賃金の2%を求める。グループ会社社員を含む完全雇用、諸労働条件の改善要求。ベア要求については労使交渉により積み上げる交渉で、労使間の信頼関係を重視する取り組みで交渉していく。JR 連合ビジョンを基調に、イーストイノベーション「自らを変える」「明日を創る」を念頭に、JR 東日本の中に民主的労働運動を勝ち取る運動を展開して行く。